

大分断

エマニュエル ドット

教育こそが格差を拡大し、

民主主義を破壊する

全て月刊誌『Voice』（PHP 研究所）インタビュー、本書のための語り下ろしインタビュー
2016 以降による。

2020/7/28 PHP 研究所 発行

2021.2.16

下山 健夫

上記の本 エマニュエル ドット 指摘をベースに次回 サロン 21 は今マスメディアで良く
指摘されている米国での分断以外の、世界で起こっている分断について討論をしたいと思
います。

以下に彼の「大分断」の要約を掲載させていただき、それもとにしたいと思えます。
野瀬さんが、お配り頂いた彼のインタビュー記事とほぼ同じ内容で、記事の方が新しい内容
だとは思いますが。

- 私がこの問題に興味を持った理由
 - (ア) 時間がたってしまいましたが、2010,2016 の 2 回のドイツ、オーストリア、オ
ランダ旅行での欧州の変化：16 年時は仏、ベルギー他で騒乱
移民への対応の違い：2010 年は比較のおおらか
2016 年は明らかに抑制的 中東、東欧から
 - (イ) 日本では米国だけしかあまり報道されないが、欧州にも分断があるのではな
いか？
 - (ウ) 米国の大学年間授業料の高騰： 有力私大は 5 万ドル越え
米国に長くすむ日本人の友人から聞いた、子供にきちんとした教育をするの
に一人 1 億円かかるとの話

「大分断」の要約

1 はじめに

1. 階級化した社会

- (ア) (民主主義) 思想の大いなる嘘の時代

- (イ)識字率が上がり、多くの人が民主主義 選挙が狂った結果
- (ウ)社会はいくつものブロックに分断、不平等を生きている
- (エ)上層部に「集団エリート」の層があり、中間層、完全に疎外された人々（仏極右政党支持）

2. 経済構造と教育の歪んだ関係

- (ア)社会が複雑化し、教育は経済的、社会的な成功を取るツール：良い仕事に就いて欲しい
- (イ)高等教育を受けるためには最低限の能力がなければいけない
- (ウ)教育は、雇用主にとって都合よく仕事に励む、順応主義的な社員を雇うことを可能にした

- ① アメリカの経済学者ブライアン・カプラン『大学なんか行っても意味はない？—教育反対の経済学』〈みすず書房〉

3. 高等教育が無能なエリートたちを生み出した

- (ア)フランス：統一通貨ユーロに関して起きています
- (イ)日本：貿易面や通貨政策の面では、割とうまく対応
 - ：出生率が非常に低い状態が長期間続いて、大国として経済を保ったまま、移民の議論を無視
- (ウ)高等教育の発展が、実は知性にとっては非生産的な結果

4. 今の若者たちは現状のシステムに疲れている

- (ア)システムの基盤は、野望、順応主義、お金
- (イ)イギリスのブレグジット（EU離脱）
- (ウ)フランスで起きた黄色いベスト運動

5. 分断された世界はパンデミック以後にどう変わるか

- (ア)ポスト・コロナは「何も変わらないが、物事は加速し、悪化する」
- (イ)黒人差別に反対する大規模なデモ：黒人のみならず、高等教育を受けた若い白人たち——主にバーニー・サンダースの支持層——が多数参加
- (ウ)白人の若者も、高等教育を受けた若者も、非・特権階級化
- (エ)教育の階層化が国家を解体し、自由貿易へと社会を推し進めた
- (オ)ヨーロッパでは、北と南の対立が悪化
- (カ)アナール学派（フランス現代歴史学の学派の一つ）

2 教育が格差をもたらした

1. 教育が社会を階級化し、分断を進めている

- (ア)アメリカでは、ベトナム戦争の際にすでに明確化
 - ベトナム戦争に反対する学生たちと戦争に送られる労働者
- (イ)フランスでは1992 マーストリヒト条約時（EU、EC 解体）政治的分断
- (ウ)現代社会では学業は就業の準備段階：教育の評価基準&経済の基準

(エ) 教育の評価基準：上層の人々の権力を驚くほど正当化

(オ) 高等教育を受けなかった人々の自信を破壊してしまう：

頭の良さ、IQの差などで上層と下層に分断

(カ) 生産過程のどこに位置付けられるのか：マルクス主義的な社会階級

(キ) 現在の高等教育比率：米、仏では1/3 日本 50%、韓国 70%

① 仏：グランゼコール、ENA、高等師範と他との階級化

② 嘗て 高等教育の発展：良いこと 能力主義—民主主義の大きな発展

2. マルクス階級社会の再来

(ア) 支配階級が自らの再生産を守るため、被支配階級の子供たちよりも

どれだけ上の教育を受けられるか

(イ) 階級に「教育」という新たなツール：家庭教師を雇う

(ウ) 米国でもこの流れは顕著：高額な寄付金

(エ) 高等教育 = 「資格」

3. 考える時間が与えられない高等教育

(ア) 学校教育ではある程度の知性が必要：今は学業と知性の分断

(イ) 高等教育の変化：昔は学生たちには考えるための自由な時間があった

① 学生たちも「完璧」であることを求められて、自らを成熟させるために学ぶのではなく、自分以外の人を押しつぶすために学んでいる

(ウ) 今の学生達は考える時間が与えられず、ひたすら授業の内容を完璧に繰り返すことができる人々を生んでいる

4. エリート対大衆の闘争が始まる？

(ア) 仏 2018 仏大統領マクロン派の権力側と「黄色いベスト」たちの対立
「黄色いベスト運動」燃料税の引き上げ反対の30、40代の低収入の人々、高等教育を受けていないながらも知性のある大衆の衝突

(イ) 支配されてきた層の人々が道徳面でも知性の面でも徐々に力を持つ

(ウ) 階級闘争の再到来

5. 日本の分断が大きくなる理由

(ア) 各々の国の文化的側面によって、社会が階級闘争に向かうのか、あるいは別の対立が起きるのか、問題の解決への道は異なる

① 祖父ポール・ニザンが書いた1930年代の

日本プロレタリアー闘争の政治記事

(イ) 仏：階級同士の真向からの対立：フランス革命

(ウ) 日本：日本は文化的にヒエラルキー、序列を尊重する傾向

① 直訴 共同体の義務、責任感代表

(ウ) 例：1929大恐慌後 独：ヒトラー、米：ルーズベ

仏：レオンブルム フランス人民戦線 日本： 軍国主義

6. 二十世紀の重要な思想の崩壊

- (ア) 良いマルクス主義：金持ちを人道主義者の観点から、人生を意味あるものにしたいと考えて金儲けもある程度を超えたら重要では無い
- (イ) 悪いマルクス主義：資本家階級を金儲けにしか目がない
- (ウ) 経済的に特権的な立場にある支配階級が存在し、人間として存在することの正当性を得るために、何らかの目的を持っているか
- (エ) 支配階級が目的を失っている

7. 混迷するエリート層

- (ア) 仏：エリートは歴史の中で道を見失い、理性を失い、何も見えない
- (イ) 米：同じ
- (ウ) 知識人階級においての変化は、彼らがどんどん内向的になっている
- (エ) ナショナリズムも崩壊し富裕層が団結した共同体への愛国心も崩壊
信仰も崩壊：イスラム教などに脅威
- (エ) 今のヨーロッパの最大の脅威：ヨーロッパ（EU）という理想がほぼ終わった

8. 社会階級闘争から教育階級の闘争へ

- (ア) 教育の差を基盤とした、完全で完璧な新たな対立の出現
- (イ) 高等教育の拡大は、社会が解放へ向かう、1968年の五月革命（パリの学生運動に端を発した、社会変革）
- (ウ) 見落としは社会全体が高等教育を受けるわけではなく、割合はほぼ全ての国で停滞し、社会は階層化されている（仏では1/3）
- (エ) 仏：最初に表面化 1992 マーストリヒト条約（大衆はNon）
- (オ) 教育格差：収入と教育には強い相関性がある：極右政党である国民連合
- (カ) 英：ブレグジット（イギリスのEU離脱）賛成派
- (キ) 米：トランプ支持派：保護主義への支持

3. 「能力主義」という矛盾

1. 識字率の上昇がもたらした歴史のうねり

- (ア) 教育の発展は歴史：プロテスタントの宗教改革が全ての人々が読み書きできるようになるべき：全世界で識字率が上昇
- (イ) 中等教育： 1929 米国の半数が中等教育
- (ウ) 高等教育： 1965 米国の1/3が高等教育 この割合が停滞

2. 世界的に学力が低下している？

- (ア) TVで視覚的娯楽の増加：子供達が読書をしなくなっている

- (イ) 読書か退屈：進歩の為には退屈が必要
- 3. エリートたちが愚か者ばかりなのはなぜか
 - (ア) 15歳以上の思春期を迎える子供には、自由に考える時間を与えるべき
 - (イ) 成績による区分け：内面化
 - (ウ) 高等教育の中のヒエラルキー：仏グランゼコール入学するには激しい競争
 - (エ) 順応主義に染まり、得意事を勉強し、学歴を高める
 - (オ) 日本の「完璧さを追求する」：どのような側面を持つか？
- 4. 能力主義が階級の再生産をもたらす
 - (ア) 高等教育の発展は、メリトクラシー、能力主義のプロセスの中核
 - ① 能力主義の観念編み出したイギリスの社会学者マイケル・ヤングは非常に軽蔑
- 5. 能力主義は民主主義という理想の逸脱
 - (ア) 民主主義： 平等 能力主義：能力による区分け
- 6. 仏：
 - (ア) 学力の競争力は知的な開花を目的とせず、社会階級が効率的に再生産
 - (イ) お金のある子供の高等教育
 - (ウ) フランスではすでに「黄色いベスト運動」とともに階級闘争
 - ① 参加者たちの多くは低収入で、かつ学歴の低い賢い人々
 - ② 対立しているグランゼコール出身の愚か者たち
- 7. 女性が男性より高学歴になるという新しい現象
 - (ア) 人類史上初めて、先進国の教育において女性が高等教育を受ける比率が男性のそれを超えるという時代
 - (イ) 仏：男性に対して女性の平均賃金が低いことと、セクシャル・ハラスメントではないか
 - (ウ) 世代間の問題として議論が必要
 - ① 追い越された男性と（生活面で）自立した女性を対比

4. 教育の階層化と民主主義の崩壊

- 1. 教育格差がトランプ大統領を生んだ（2016年アメリカ大統領選）
 - (ア) 民主主義というのは、歴史の流れの中で発生する、社会のある「時期」
 - (イ) 民主主義制度とは民主的な気質から形作られたもの
 - (ウ) 現代社会の特徴はこの高等教育のレベルがさらに何層にもなっている
 - (エ) 共和党トランプ：中等教育止まっている人たち
 - (オ) 民主党H.クリントン：高等教育で学部以上、有名大学出身者
- 2. 「集団エリート」という新たな現象
 - (ア) 嘗て イギリス： 19世紀 投票権拡大 エリートが貢献

仏： 第三共和制が機能した 民主主義

(イ) 昔はエリートというのは社会の一部の、非常に頭の良い、高学歴で社会的責任感を持ち、同時に国家に対する責任感にも溢れた

(ウ) 英 米 仏：エリートに対して遅れている大衆：教育的な観点からも「上層部」

3.社会的分断と家族構造は関係している

(ア) 識字率の向上、ある地域、国、民衆の思想的気質と、家族構造との関係性

(イ) フランス・アメリカ・イギリス型民主主義：

①核家族で個人主義 そこから生まれた価値観が自由と平等

(ウ) 「ドイツ・日本型」の民主主義

①直系家族構造で、そこでは長男が父を継いでいく：権威の原理と不平等

(エ) 「ロシア型」の民主主義 中国をふくむ

①権威主義と平等主義。伝統的な宗教の崩壊が起き、共産党が誕生

②プーチン ロシア：権威主義と平等主義に合致した民主主義で、一体主義的な民主主義

(オ) 戦後 独、日本は民主主義を築く：直系家族制度では「階層民主主義」が発展

(カ) 英、米、仏： 交代制の二大政党制民主主義

4.日本型民主主義は教育格差を広げない

(ア) 日本では、教育レベルの低い人々を 蔑視して語ることはあまりない

(イ) 自民族中心主義思想から、日本には移民はいらない：西洋の考え方と違う点で、日本が非難される理由

(ウ) 日本社会の上層部にいる政治的あるいは文化的なエリートたちはまず、自国の大衆たちに対して近しい感情を持つ

(エ) 英、米、独は教育に関して規律の程度が比較的に低く、教育の差が生まれやすい基盤

(オ) 但し、日本も変わってきていますし、日本でも格差が問題となって久しい

5.分断を脱するために必要な「交渉」とは

(ア) 現代社会には二つのカテゴリーがあり“Anywhere”世界の様々な場所を旅し、グローバル化したエリート達、二つ目が“Somewhere”で社会の下層部の人達

6.民主主義の機能不全は教育の階層化が原因

(ア) 交渉の道

①イギリスのEU離脱、「ブレグジット」でエリート知識層が社会の上層部と下層部の交渉の必要性に気づいた

(イ) 民主主義の崩壊：

①フランスの伝統的な民主主義の姿は、右派と左派が闘争関係

②民主主義が完全に機能不全：2017 マクロン大統領選 伝統的な民主主義：

7. 「黄色いベスト運動」は大衆とエリートの対立だった

(ア) フランス社会の生活水準が下落を続けている：国民の70%が賛同した

(イ) 運動の参加者たちはほとんどが低所得者層

(ウ) 討論が始まってからメディア、TVはマクロン一色となり、独壇場が得意で一人でいつまでも話し続ける能力があり、フランスは言論の自由がない
独裁政権

8. フランス社会の階級闘争が始まっている

(ア) 黄色いベスト運動以降、マクロンの人気は低迷

(イ) 2019年5月に実施された欧州議会選挙では、マクロンの支持者層が変わりリベラルな層が離れた

(ウ) 以前のマクロンのイメージは、「若く、リベラル」：実際は保守派の大統領
19世紀の大統領

(エ) マリーヌ・ルペン率いる国民連合が欧州議会におけるフランスの第一党

(オ) 「フランス社会の五五%の人々がマクロンもルペンも支持していない」適切な代表者がいない

(カ) 黄色いベスト運動で叫ばれた生活水準の低下は、今後確実にフランス全土に広がり、全体化した時に、新しい(政権の)形が生まれる

9. ブレグジットはポピュリズムではない

(ア) 英：ブレグジットという民衆の決断をエリートが汲み取る小さな奇跡

(イ) ポピュリズムとは、大衆がエリートを失った状態

(ウ) リベラルな左派の雑誌、『Prospect』を創刊したデイヴィッド・グッドハートは、「品位のあるポピュリズム」

(エ) 米：ダイナミックな統合失調症に

①社会階層間の分離：

a. 怒り狂った教育レベルの低い大衆層

b. エスタブリッシュメント側の人々はこの結果を認めていま

(オ) 民主主義の危機に対して完璧な解決策を期待できない

①政治的な無秩序の度合いが変わるといふ：酷すぎる状況避ける

5. 日本の課題と教育格差

1. 日本における「能力主義」

(ア) 米や仏は平等主義の社会では、能力主義は平等という理想の歪んだ形

(イ) 戦後の日本においてもこの能力主義という考え方は非常に根強い

(ウ) 直系家族を基盤とする日本のような社会は、そもそもが身分制の社会

- (エ) 仕事も高尚であり、正しく為なされるべき、といった考え方
「馬鹿な人はいても馬鹿げた仕事はない」
 - (オ) 高等教育を受けたエリートが存在するが、他国と異なるのは、人々が身分、
序列を認めている
 - (カ) 直系家族構造の社会の問題は、非常に効率的ではあるが、現状の形を
そのまま繰り返す
- 2.なぜ日本ではポピュリズムが力を持たないか
- (ア) 大学入学の際に非常に激しい競争プロセスが存在
 - (イ) 大学もレベルによって明確に序列化されて
 - (ウ) ポピュリズムというのは、エリート主義を批判することで政治システムに入っ
てくる政党
 - (エ) 明治の頃からすでに教育の重要性を認識
 - (オ) 西洋からの脅威に対抗し階級化したシステムを残したままで大規模な民主化
- 3.グローバル化への適応と人口減少の関係
- (ア) 江戸時代に日本は商業面でも技術面でも、自国のみで発展を遂げ、不思議なこ
とに一部の西ヨーロッパの発展と並行した
 - (イ) 日本やドイツでは人口の自然減が深刻である
 - (ウ) 日本文化や社会的なディシプリン（規律）のおかげ
 - (エ) 日本と移民との関係というのはいまだに難しい
 - (オ) 日本に必要なのは「少しばかりの無秩序」である

6.グローバリゼーションの未来

1.教育の階層化と自由貿易の関係

- (ア) 世界で大きな問題となっているのが自由貿易を背景とした米中対立
- (イ) 自由貿易は、高等教育を受けた20%の人々がその恩恵を受けていた時に
最盛期
- (ウ) 2000年初頭米国の高等教育を受けた者が30%に増加した、中流階級の人々の
収入の平均が大きく下がった後、今度は大卒者の収入が停滞
- (エ) バーニー・サンダース支持者達：20,30代の大学卒業者
- (オ) 2020年5月、ジョージ・フロイド暴動の黒人差別に反対には上記の
白人も参加
- (カ) 高等教育を受けた若い人々が自由貿易の悪影響を受けて苦しむ
- (キ) 自由貿易は、先進諸国において不平等を拡大し、資本家と高齢者を優遇
- (ク) グローバル化疲れ

2.疲弊した大衆は保護主義を支持した

- (ア) 今の自由貿易では需要に構造的な圧力がかけられ、貿易戦争状態

- (イ) 第二次世界大戦後、米国は欧州、日本に市場を開放し世界に自由貿易
- (ウ) ベルリンの壁崩壊後、11 億人を超える人口の中国が自由貿易に入り込んで、米国は貿易赤字が制御しきれない 65%は中国
- (エ) 1995 年以降、白人米人死亡率は逆に明らかに上昇を始め、現象は中国のWTO加盟によって打撃を受けた産業がある州で顕著：トランプ保護主義 民主党のバーニー・サンダースも保護主義
- (オ) 明晰なポピュリストたちが理性を失ったエスタブリッシュメントに勝利
- (カ) 米国は大規模な移行フェーズにさしかかっている
- (キ) アメリカ人たちが保護主義を望んでいるなら《Yes they can》

3. グローバリゼーションは終わるが「世界化、は終わらない

- (ア) 「グローバリゼーション」と「世界化 (Mondialisation)」を区別
- (イ) インターネットにより世界中とコミュニケーションを取ることが可能になった状態、英語の世界共通語化、人々の国家間される移動が強化
- (ウ) モノと資本の自由な流通という点に限る
- (エ) 独の経済学者フリードリヒ・リストは保護主義を自由主義の一端でありながら、国家 (ネーション) の存在を認める
 - ① ヒトと資本の流通の自由を認める
- (オ) 自由貿易は単純な思想で、全ての障壁をなくせばうまくいく
- (カ) 非常に多様な種類の保護主義が存在
- (キ) 対して世の思想家たちは、「自由貿易よ、世界を制覇せよ」

4. 保護主義は本来、民主的な仕組み

- (ア) 現時点ではイギリスで起きていることは保護主義ではない
- (イ) 英では世代間の分離が見られ米人と同じように、労働者階級をめちゃくちゃにした
- (ウ) 民主的な選択はきちんと重要視
- (エ) 右派の保守党がブレグジットを認め、EU離脱に向かうための具体的な方法を検討している
- (オ) 仏、ユーロ圏こそ緊縮財政政策は為替レートでの調整が不可能ということと合わさり、戦争状態は他のどの地域より激しくなっている
- (カ) ヨーロッパはアメリカのように民主主義的な気質では無く、保護主義に移行するためには、民衆の選択の正当性を認める必要がある
- (キ) 「保護主義＝閉ざされた世界＝差別主義」

5. 反EU運動はポピュリズムなのか

- (ア) イタリアで2018年3月に行なわれ、左派ポピュリストと言われる「五つ星運動」が与党第一党を取った選挙も、このような保護主義への反応の性質を帯びているのか？

- (イ) 失業率や賃金の停滞、社会流動性の低下、社会格差などの全てを含め、この世界をありのままに見る必要
 - (ウ) スペインが政治的な意味でネーション(国民国家)として存在していない。首都マドリードは、失業と移民の問題をそのままに放置するブリュッセル(EUを指す比喻)の窓口と化している
 - (エ) 政治システムの崩壊はEU圏にとって深刻な結果
6. 移民と民主主義の関係：民主主義には「外国人嫌い」の要素がある
- (ア) 人の流れの行き過ぎた自由(移民)に対する反抗もある
 - (イ) 民主主義とは、ある土地で、ある民衆が、お互いに理解できる言語で議論をするために生まれ、土地への所属ということと、外から来るものに対する嫌悪感が基盤にある
 - (ウ) 民主主義への復活の裏にはこの「外国人嫌い」の要素が含まれていることはある意味当たり前
 - (エ) 様々な宗教、人種が集まり、混合している社会を具現化した「世界都市」、ニューヨーク、ロンドン、パリなどの都市
 - (オ) 「最低限の国土の安全が保障されていなければ、民主的な生活を営のは難しい」移民の流れを制御する政策自体は不当ではない
 - (カ) 文化的、社会的な層ではこのような急進的と言えるほどの国境開放への感情の高まりがあり、これはニヒリズム(虚無主義)

7. ポスト民主主義に突入したヨーロッパ

1. 国内の分断と民主主義の崩壊が同時に起きている

- (ア) 独：
 - ①人口的には減少
 - ②経済と政治の有効性という側面は統一通貨ユーロ通貨圏の管理
- (イ) ラテン系の国々(独周辺)：
 - ①とてつもなく高い失業率を抱え、衰弱している
- (ウ) 東欧：
 - ①出生率が低下
 - ②独とルーマニア人の収入格差：ヨーロッパは経済面、社会面において不平等
- (エ) EUの目的：生活水準を平等にする
- (オ) 1930年代真の民主主義が生まれたのは、アングロ・サクソンの世界とパリ盆地
- (カ) 当時近代、ユーロ圏の政策にもたらしたものと言え、サラザール、ペタン、フランコ、ヒットラー、ドルフースといった独裁者
- (キ) 今は権威主義的価値観という大陸ヨーロッパの伝統：リベラル民主主義に

とって決して好都合なものではない

- (ク) EUは、抽象的な政治哲学の観念が現実の壁にぶち当たっている場所
- (ケ) 民主主義は「人はみな平等で自由」：うまくいくためには人々の教育レベルが均一でなければならない、お互いに理解し合えて、そして時には衝突し合うことも可能：今のEUではそれは不可能
- (コ) ポスト民主主義と今は社会の上層部の人々にとって生活は心地いいものであり続ける代わりに、それ以外の人々は社会の周辺に追いやられている

2. ブレグジットの未来、欧州崩壊の予兆

- (ア) イギリス人たちはなかなか紛争には至らないが一度始まれば強い
- (イ) ブレグジットはむしろEU側に困難な事態をもたらすことを意味
 - ① 失業率に関して、英は4.5%程度なのに対して、フランスは9%
 - ② 経済的混乱が起きれば最初につぶれるのはフランス
 - ③ 他国がブレグジットに追随するかというと、それは簡単なことではない
 - ④ 他国はユーロ経済圏を出ることを恐れている：
 - a. ヨーロッパ大陸全体で日本と同様に高齢化が進んでいる
 - b. ユーロ離脱は貨幣の不安定化を意味し、年金の不安につながる
 - ⑤ イタリアがドイツへの敵対心：強制した緊縮財政政策等「権力と束縛のシステム」
 - ⑥ ドイツの独断：公共投資の抑制、原発エネルギーの廃止を宣言：火力発電所をフル稼働することで環境汚染を拡大：難民や移民政策に

3. ドイツが築き上げた「ドイツ帝国」という経済システム

- (ア) 家族人類学では、ドイツと日本を同じ直系家族のシステムを持つ国として分類：分析しやすい
 - ① 日本：人口の減少という危機：今後数年で日本がどの程度の移民を受け入れるか
 - a. 帝国主義的な方向に行く懸念は無い
 - ② ドイツ：人口面では対日本よりも小規模：国際的な国家権力を諦めていない
 - a. 移民を受け入れ人口維持に必死：東欧諸国との経済システムを再構築し、
 - b. 東欧の安価な労働力で生産した製品を、ドイツを経由して他国へ輸出する「ドイツ帝国」システム：GDPは世界第四位（2018名目）：
メルケルの移民政策
 - c. 1960年代からの政策：ドイツ人支配階級の考え：「労働力の若返り」
 - d. 戦後のドイツには、ユーゴスラビア、トルコ、他の東欧諸国から、大量に移民が流れ込ませた
 - ③ 2105年、ドイツは緊縮財政と予算収縮の政策によって、ギリシャ、イタリア、スペイン、ポルトガルの経済を破壊
 - ④ ドイツはユーロ圏内の西と南で競争相手を蹴散らして、ハイテク部門では

中国、アメリカ、日本をはるかに凌しのぎ、世界トップクラスの輸出国

4. 「ドイツ帝国」の活力であり、アキレス腱でもある移民

(ア) 現在は、フランス人が「歴史なき民」世界の歴史が大きく変わりうる潮目に立ち会っている

(イ) 東欧民族の受け入れは常にゲルマン系スラブ人で構成されていて楽

(ウ) トルコ人を受け入れは問題：家族構造が父系制、男性優位で内婚制（いとこ婚、独では1%以下）仏のようにイスラム教が問題では無い

①いとこ婚率はスンニ派シリア人で35%で、アサド大統領の支持者層のアラウィー派では19%、イラク人で36~37%

② 同族婚の伝統を持つ何百万という難民が流出してくる

(エ) 文化が違う人々を、急速なスピードで、社会に組み込みコントロール、ドイツの階層化、硬直化は進み、移民受け入れの代償が大きい

(オ) 移民というのは簡単な問題では無く、全ての人々が同化されない可能性

(カ) アメリカにとって、ドイツ帝国化したヨーロッパは目障り

5. フランス社会の階級化がもたらした反移民・テロ問題

(ア) 移民が移住国へ同化する必要条件是、経済が好調で、よく働けば上に行けるとい社会が正常に機能している、フランスはこれに失敗した

(イ) ドットの理想：フランスがユーロ圏内で上手く立ち回り、成長率もゼロに落とさず、社会階層が硬直化してしまわない社会

(ウ) 嘗て：諸外国と良好な関係を結びつつ、国内は身体的な外見の違いにこだわらない社会だった

(エ) 2015年、パリで死者130名を出した同時多発テロ事件

①政治学者オリヴィエ・ロワが説くように、イスラム主義は問題の表層にすぎず、放置されてきた若者の一部が過激化するきっかけの一つでしかない：ドット

② 政治学者のジル・ケベルが主張するように、イスラム主義の浸透と、宗教そのものの強烈な吸引力を矮小化している

a. 政府や視野の狭いイスラム専門家たちは、ライシテ（政教分離の原則）を叫ぶことでフランス国家を治めようとしますが、彼らは、フランス内部からの凄まじい怒り、農民の絶望、労働法改正案に反対をした若者たちの怒り

(オ) フランスはもう独自の通貨を持たず、独自の経済政策も取れないため、社会は麻痺

(カ) 若者たちが社会人となることがいかに困難、収入は低下し、就職率は惨めなほど低く、インターンという名の下で低賃金あるいは無償で働かされている

6. フランスの中産階級は無能になった

(ア) 『シャルリとは誰か？』で大論争：支配する階級の責任を問い、

社会主義政策は 凡庸な集団詐欺

- (イ) 今日のフランスの中産階級は、もはやフランス革命の継承者ではない
- (ウ) オランダ大統領（当時）は虚構で、何の決断も下さない

8. アメリカ社会の変質と冷戦後の世界

1. 文化的ゲッターの出現

- (ア) 2016年トランプ大統領の誕生は、エリートと大衆の分断を露わにした
- (イ) 原因は、高等教育の発展によって生じた教育格差
- (ウ) 各世代の30-40%が高等教育を受ける時代になり、高等教育を受けた人々だけで社会集団を形成し、その中だけでも生きていける世界
- (エ) アメリカではこの社会集団は1965年で、フランスでは30年遅れ1995年
- (オ) 対照的：経済的に日々生き延びることを考えている、高等教育を受けなかった人々でこれはクリストファー・ラッシュの著作『エリートの反逆——現代民主主義の病』

2. なぜトランプ当選を予言できたのか

- (ア) オバマ大統領は経済的なプログラムを示していず、2016年にはバーニー・サンダースの民主党における爆発的な人気があり、トランプと両者の躍進はアメリカ社会の芯（白人層）の部分の気質が変わったこと
- (イ) アングロ・サクソン系の人々は平等主義とはあまり相容れない気質
- (ウ) ワシントン・コンセンサスの基礎である自由貿易と資本の流通の自由化については再検討をせず、アメリカの大衆層と中流層の人々の生活水準と安全を悪化させるメカニズムは見直さなかった
- (エ) トランプは共和党の人種主義とは逆の立場におり、議論を経済面で展開した
- (オ) 民主党は人種問題に関して、「皆こう考えるべきだ」黒人たちを守ると主張した

3. トランプは本当に保護主義者か

- (ア) 資本主義かつリベラルであり続けるべき市場に限度を設ける
- (イ) 保護主義とは自国の内部を自由化しながらも外部に対し自国を保護するという手法：自由主義の一つ
- (ウ) アメリカには二つの勢力が対立している：国家を優先する政党とグローバル主義の政党
- (エ) 低賃金の労働者によって生産された商品が国外から流入することを自らを守る
- (オ) マルクス主義的なアプローチに固執し、お金の権力を打倒して、できれば資本も廃止したいとは異なる

4. 自由貿易の弊害がアメリカ人の気質を変えた

- (ア) 絶対核家族はアングロ・サクソン系のリベラル主義の資本主義の発展も説明してくれる。

(イ) 平等の理想に対してアメリカやイギリスが割と無関心で、これらの地域で資本主義が円滑に機能する理由で、そこでは一定の人のみが利益を得ることに関して人々があまり驚かない

(ウ) 2000年から2015年の間に、このモデルの限界に達した

①白人の死亡率の増加というデータ

(エ) ロシアの共同体主義の伝統は共産主義の出現：1975-1990

①乳幼児死亡率の増加

②ロシアの民主主義は、ロシア人の80%がプーチン支持する権威的な民主主義

(オ) 米国は1960年以降、離婚率の上昇や婚外子の増加など不安定なフェーズと文化危機の時代になり、凄まじい勢いで殺人率が上昇した

5. トランプ大統領は「文明の衝突」をよみがえらせるか

(ア) (脱工業化が進む) ラストベルトとペンシルバニアでのトランプの勝利は、ある種の合理性を持つ

(イ) 国際政治において、彼の狂気について多くのコメンテーターたちが語っているが、国家的なものへの回帰からは合理性もある

(ウ) 中国とドイツこそ、経済的な競合相手としてアメリカにとって目障りな存在で彼が攻撃している：ドイツと中国は自由貿易の強烈な推進派

6. 冷戦後の世界を俯瞰する

(ア) ベルリンの壁崩壊から30年だが、結果的に地政学上の構図にほぼ変化がみられない

(イ) 今でもロシアと中国というブロックが存在しおり嘗て西欧ブロックいたイランが加わった：ベトナムが中国から離れた

(ウ) アメリカが敵視している国はまず中国は、経済的にも戦略的にも、思想的にも我慢ならない相手：

(エ) 中国は、経済的には輸出に頼らざるをえないなど脆弱な側面がありつつも、新しいタイプの全体主義

(オ) アメリカは、ヨーロッパでの覇権を失ってしまった理由のドイツも敵対視している

(カ) ドイツはもはやアメリカに従わなくなっている

(キ) アメリカは日本を必要としているという状況があり、アメリカに対する日本の交渉力は近年高まっている

7. 米中覇権戦争が持つ三つの側面

(ア) クリントン派たちはすでに多くの手段を失っているにもかかわらず、アメリカ帝国が世界を制しているというビジョンを持ち続けている

(イ) 中国が地政学的な側面においても非常に攻撃的

(ウ) 一つ目は貿易、二つ目が軍事、そして三つ目が文明で、全体主義で警察によって

監視されている中国は民主主義を脅かす存在

(エ) 中国が最大の力を得るためにはロシアの軍事力を必要

(オ) アメリカはロシアと中国、両国と紛争状態

8. アメリカとロシアが手を組む可能性

(ア) 冷戦というのは、ロシアとアメリカの対立で、二カ国が、いつか協力し合う関係になるとというのが本当にありえないことなのか？

(イ) 米国メディアはそれとは真逆の見方が一般的には展開されている

① トランプはロシアやウクライナとの関係を持っている

9. 「絶対値による会話分析法」とは何か——真実を見極めるための思考法

(ア) 新聞や資料の中から、「これはいい」とか「これは悪い」のプラスあるいはマイナスの部分を省き「アイテム」(=絶対値)を取り出し、それがどの程度の頻度で現れるかを検証方法

10. パンデミックが露わにした民主主義の危機

(ア) フランス政府はこの医療危機に対応する中で、「民主的な形態を遵守すること」を言い続け、緊急事態という状況で、様々な措置を講じる必要ため、「我々は民主的な規則を遵守すべきだ」「法の採択が必要だ」

(イ) 医療危機が去った後にも残ってしまうような危険な法律を、緊急採択された。合法性を超えたところで一時的に緊急事態措置を講じることの方が、こうした法案を採択してしまうことよりも、民主主義にとってのリスクは低い